様式第４（事業完了（廃止）報告書）

事業完了報告書

令和７年３月３１日

支出負担行為担当官
文部科学省初等中等教育局長　殿

（実施機関名）　住　　所　広島県東広島市鏡山一丁目３番２号
名称及び　国立大学法人　広島大学
代表者名　学長　越智光夫

令和６年４月１日付け令和６年度ＷＷＬ（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（個別最適な学習環境の構築に向けた研究開発事業）は，令和７年３月３１日に完了したので委託契約書第１０条の規定により，下記の書類を添えて報告いたします。

記

１．事業結果説明書（別紙イ）

２．事業収支決算書（別紙ロ）

様式第４（別紙イ）

事業結果説明書

１．事業の概要

（1）事業の実施期間

令和６年４月１日　～　令和７年３月 31 日

（2）実施機関名

機関名：国立大学法人　広島大学

（3）構想の概要

構想名

当事者意識を育む課題探究学習プログラムを中心とした，個別最適な学習環境の構築

概　要：

本事業では，対話を中核とする課題探究学習を通して「当事者意識の涵養」を目指し，誰もがアクセスし参加できる「これでしか学べない」学びのコンテンツを創出し，被提供校に発信していく。 課題探究を行う上で，生徒自身が様々な社会問題の当事者であるという自覚をもつことを「かかわり」(engagement)，課題解決に向けて自分の意志で主体的に行動しようとすることを「はたらきかけ」(action)とするなど，必要な観点を整理する。そして，これに基づいて，各学年・発達段階に応じた課題探究学習の在り方を検討し，従来の課題探究プログラムを見直し更新していく。また，広島大学附属福山中・高等学校が，学年や教科等を横断して蓄積してきた，生徒の主体的な課題探究を補い促す指導について，他校の範となる汎用性の高い成果物として発信していく。 このような考え方，手法に基づき，当事者意識を育む課題探究学習プログラムを中心とした，個別最適な学習環境の構築を目指すものである。

（4）調査研究の方法　※複数選択可，具体的な内容については公募要領に記載

☑　①オンデマンド配信による学習機会の創出

☑　②オンライン授業による学習機会の創出

☑　③大学教育の先取り履修に資するコンテンツによる学びの提供

２．事業の実績

(1)実施日程・(2)実績の説明とも，事業実施計画内の以下①～⑩を下表のように整理して報告する。

① 関連部署等との調整・連携支援体制
② 組織的な課題研究体制
③ コンテンツおよびカリキュラム開発
④ 課題研究グループネットワーク
⑤ 高度な学びを提供するＡＰの開発
⑥ 成果発表会等の実施
⑦ ＡＬネットワーク会議運営
⑧ 報告書作成と成果の普及
⑨ 教育研究会（中間報告会）の企画・実施
⑩ 運営指導委員会等による研究開発の評価と総括，次年度への課題の明確化

(1)実施日程

事業項目	実施期間（令和６年４月１日　～　令和７年３月 31 日）											
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
事業連携校・関連部署等との連携(①②④)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ＡＬネットワーク会議(⑦)		○	○					○		○	○	
コンテンツ及びカリキュラム開発(③)												
・留学生とともに未来を考えるプロジェクトの実施			○	○	○	○	○	○	○			○
・真庭研修の実施									○			○
・未来の医療を創るプロジェクトの実施			○	○						○		
・総合的な探究の時間におけるプログラムの実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
成果の発表・普及(⑥⑧⑨)												
・教育研究会の企画・実施	○	○	○	○	○	○	○	○				
・成果発表会の企画・実施								○	○	○	○	○
・その他成果の普及				○				○			○	○
高度な学びを提供するＡＰの開発(⑤)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運営指導委員会(⑩)												○

(2)実績の説明

■実施体制の整備（事業連携校・関連部署等のとの連携・ＡＬネットワーク会議）

本事業を円滑に運用するため，各連携校や関連部署等との連携が滞りなく行われるように体制を整えた。昨年度から継続しているメーリングリストを年度初めに更新し，随時情報の連絡・交換・共有ができる体制を確保し実施した。

会議名	目的	構成	時期
ＡＬネットワーク運営会議	事業の具体的な実施にあたっての方向性を検討・決定する。	事業提供校校長 事業被提供校校長 広島県教育委員会	４月，８月 12 月 随時連携
ＡＬネットワーク連絡協議会	事業連携の調整等，実務に関する研究協議を行う。	提供校実務担当者 被提供校実務担当者	５月，11 月 随時連携

※被提供校：広島大学附属中・高等学校，広島県立福山誠之館高等学校，福山市立福山高等学校，広島市立舟入高等学校，福岡県立小倉高等学校

ＡＬネットワークにおいて確認・協議した内容は次のとおりである。

・令和６年５月 14 日(火)・17 日(金)

WWＬコンソーシアム構築支援事業（個別最適な学習環境の構築に向けた研究開発事業）について

個別最適および協働的な学びにつながるプログラムの計画と生徒募集依頼

配信コンテンツについて

・令和６年６月　「留学生とともに未来を考えるプロジェクト」打ち合わせ

・令和６年 11 月　「真庭研修」募集案内，打ち合わせ

・令和７年１月　WWＬ成果発表会について（プログラム・出場者について）

・令和７年２月　WWＬ成果発表会について（当日のウェブ配信について）

■コンテンツ及びカリキュラム開発について

これまで広島大学附属福山中・高等学校が実践してきたWWＬ３年間及びWWＬ個別最適な学習環境の構築事業２年間の成果を応用し，「これでしか学べない」コンテンツを創り出し，個別最適および協働的な学びにつながる対話の場を実現するプログラムとして実施した。２年目までの実施プログラムがより整理された形で実施できるよう開発を進め，それに加えて今年度新たに始めることができたプログラムもある。具体的な内容は以下のとおりである。

・<u>留学生とともに未来を考えるプロジェクトの実施</u>

旧広島大学大学院国際協力研究科（International Development and Cooperation：IDEC）の大学院生である留学生を研究指導者，広島大学総合科学部国際共創学科（Department of Integrated Global Studies：IGS）の学部生を議論の支援・進行役として招き，高校生による課題探究を実施した。

今年度は広島大学附属福山高等学校 16 名に加え，被提供校の福山市立福山高等学校６名，広島県立福山誠之館高等学校４名，広島市立舟入高等学校４名，福岡県立小倉高等学校３名の計 33 名が参加した。「平和」「教育」「交通」「バイオマス」の４分野について，６グループに分かれて探究活動を行った。各グループは複数の学校の生徒が入るようにし，他校の生徒同士が協働して取り組めるようにした。

日程と活動内容については以下のとおりである。

	月日	内容
第１回	６月 15 日(土)	留学生が自分の研究テーマに関連した発表をし，それを元にして議論をする。
第２回	７月 13 日(土)	留学生が自分の研究テーマに関連した発表をし，それを元にして議論をする。
合宿	８月３日(土) ４日(日)	連携校の生徒を附属福山に招き，研究グループごとに研究テーマを決め，実地調査や研究協議を進める。
第３回	10 月 26 日(土)	高校生による英語での研究中間発表および英語でのディスカッションを行い，留学生に助言をもらう。
第４回	11 月 16 日(土)	高校生による英語での研究中間発表および英語でのディスカッションを行い，留学生に助言をもらう。
第５回 最終発表	12 月 15 日(日) 広島大学	高校生による英語での最終研究発表と質疑応答。

第１回，第２回の具体的な日程は，以下のとおりである。

13:00　対面参加者は附属福山図書閲覧室へ集合／オンライン参加は Zoom 接続完了
　　接続準備，グループ分け，自己紹介等
13:40　留学生による発表①
13:50　発表①に関するディスカッション
14:40　休憩
14:50　留学生による発表②
15:00　発表②に関するディスカッション
15:50　諸連絡
16:00　終了

第３回，第４回の具体的な日程は，以下のとおりである。

13:00　集合（附属福山図書閲覧室），オンライン準備
13:30　日程確認，注意点説明
13:40　グループごとの研究発表①
13:50　研究①をよりよいものにする議論，検討
14:40　休憩
14:50　グループごとの研究発表②
15:00　研究②をよりよいものにする議論，検討
15:50　各グループで，次回に向けての確認
16:00　終了

このプロジェクトは，オンラインで各参加校をつなぎ，探究グループも学校の垣根を越えて編成している。そうした場合すべてオンラインではグループ内での意思疎通がうまくいかず，探究活動が滞る可能性があるため，第３回の前に全参加校を対象に研究合宿を行った。対面で議論を行い，関係を作っていくことで探究活動の深化につながっている。最終回では広島大学に参加者が集まり，研究発表会を行い，代表３グループは３月の成果発表会でも英語での発表を行った。

・真庭研修の実施

2024 年 12 月 26 日(木)，27 日(金)に，被提供校とともに真庭研修を実施した。この研修は，岡山県真庭市が取り組んでいる「真庭市バイオマスツアー」をアレンジしたプログラムに参加し，環境問題や地域振興，林業のあり方等の問題についての先進的な取り組みを学ぶことを目的とした研修である。

今年度は，広島大学附属福山高等学校９名に加えて，広島県立福山誠之館高等学校２名，広島市立舟入高等学校２名，福岡県立小倉高等学校２名の計 15 名が参加した。今回は，広島大学附属福山高等学校の生徒については，高等学校１年生に加え，昨年度この研修に参加した高等学校２年生も対象に募集を行った。参加した９名のうち，高等学校２年生は４名である。

２年目の４名については，昨年度の研修を元に，「総合的な探究の時間」において現在探究活動を続けているところである。研修後も真庭市の研修先の担当者とやりとりを続けている生徒もおり，自分たちの研究をさらに深める目的と，１年目の後輩に対するアドバイザー的な役割を担うことを目的とした。また，１年目の参加者はレポーターとなり，真庭市における様々な取り組みを取材するというコンセプトである。研修後はここでの学びをまとめた動画を作成し，成果発表会で上映した。

日程と活動内容については以下のとおりである。

月日	時間	内容
12 月 16 日(月)	16:00	事前学習会 （広島大学附属福山中・高等学校にて。被提供校はオンライン参加）
12 月 26 日(木)	8:40	福山駅集合，バスで出発
	10:30 11:00 12:00 14:00 15:00 15:45	真庭市役所にてバイオマスツアーガイドと合流 〇真庭森林組合：人工林や山の管理，バイオマス事業の学習 〇勝山町並み保存地区・真庭市立中央図書館：昼食・散策 〇真庭バイオマス集積地：バイオマス原料供給拠点見学 〇真庭バイオマス発電株式会社：発電と林業，電力問題について 〇久世公民館：バイオマスツアー，観光・地域振興について
	17:30	ゆばらの宿　米屋　到着
12 月 27 日(金)	9:00	出発
	9:30 11:00 12:00 13:15 14:15	〇ランデス株式会社：環境保全とコンクリートについて 〇真庭市くらしの循環センター：生ゴミ資源化のしくみについて，循環型社会の構築について 〇真庭あぐりガーデン：循環型社会について，昼食 〇銘建工業株式会社：工場併設型バイオマス発電，CLT 建築の事務所見学 〇清友園芸：ビニールハウスペレット焚きボイラーについて
	15:00 17:00	真庭市を出発 福山駅到着・解散

・<u>広島大学とともに未来の医療を創るプロジェクト１・２の実施</u>

広島大学トランスレーショナルリサーチセンターとの連携のもとで行っているプロジェクトである。今年度は 2022 年に開始したプロジェクト１に加えて，新たなプロジェクト２も実施することができた。

<u>プロジェクト１</u>は，高校生，研究者，企業が一緒になって新しい医療機器のニーズを考え，医療機器ニーズステートメントとして発表する，というものである。昨年度に引き続き，被提供校の広島大学附属高等学校とともに実施した。参加者は広島大学附属福山高等学校 30 名，広島大学附属高等学校 3 名であり，最終的なニーズステートメントの発表は審査後上位の 14 名で行った。

日程，活動内容は以下のとおりである。

	日時	内容
第１回	6 月 12 日(水) 16:00～17:45	広島大学トランスレーショナルリサーチセンター杉山大介教授による講演（終了後質疑応答あり）
第２回	6 月 19 日(水) 16:40～17:45	医療機器開発企業（ニプロ株式会社）による講演（終了後質疑応答あり）
第３回	6 月 20 日(木) 16:40～17:45	医療法人辰川会山陽腎クリニック（福山市野上町）における，医療現場のオンライン観察，医療に携わる方々とのディスカッション実施
	6 月 20 日(木)～	生徒個人でニーズステートメントの作成
第４回	7 月 17 日(水) 15:00～17:00	生徒による新たな医療機器ニーズステートメント発表会

以上の会場はすべて広島大学附属福山中・高等学校内で行い，広島大学附属福山高等学校は広島大学の繁本憲文准教授のサポートの元，オンラインで参加した。医療現場の観察も双方の学校がオンラインで行ったが，お互いの顔が見える形で質疑応答も活発に行われ，滞りなくプログラムを実施することができた。

（本プロジェクト開発の経緯等の詳細については，下前弘司「「広島大学と広大附属福山の生徒がともに未来の医療を創るプロジェクト」の実施とその教育効果に関する研究」（広島大学　学部・附属共同研究機構研究紀要　第 51 号　2024.3）を参照。）

<u>プロジェクト２</u>は，プロジェクト１と同じく広島大学トランスレーショナルリサーチセンターとの連携のもと今年度初めて実施したものである。このプロジェクトは，小児患者向けの治験を想定し，より分かりやすく適切な治験用アセント文書を考えることをテーマとし，生徒が小児患者の立場，保護者が患者の保護者の立場になって改善案を考えることとした。そのアセント文書は元々，小児に理解できるよう平易な文章で作成されているものであるが，それを専門分野に属する大人だけではなく，小児患者と年齢の近い中学生の立場からよりよくすることを考える取り組みである。また，治験説明の実際に近づけること，生徒のサポートをしていただくことを目的として，保護者同伴を参加の条件とした。

広島大学附属福山中学校の生徒 13 名とその保護者 13 名が参加した。

日程，活動内容は以下のとおりである。

・１月 18 日(土)9:30～12:30　広島大学附属福山中・高等学校　マルチメディアホールにて

時間	内容
9:30～	広島大学杉山大介教授によるプロジェクトの概略説明
9:45～10:20	アセント文書・同意書を読み，初読後の感想，質問等を記述する
10:20～11:10	広島大学病院小児科医の武内香菜子先生による，治験と治験薬についての説明とそれを踏まえた質疑応答
11:10～11:20	杉山先生による補足
11:20～	休憩
11:30～12:00	グループに分かれてアセント文書の改善点提案，発表準備
12:10～12:25	グループ発表
12:25～	プロジェクトを通してのアンケートに回答

かなり情報量の多い内容であったが，活発な意見交換や質疑応答が行われ，最終的なグループでの発表まで行うことができた。生徒は，困難を抱える他者を想像しながら考察することができており，同時に第三者の立場で冷静に課題解決に取り組むこともできていた。このような態度が，当事者意識を育むことにつながると考える。

今後も今回の形のものを改善しながら，同様の内容のプロジェクトを進めていきたいと考えている。今年度は実験的に附属福山でのみ実施したが，今後は被提供校に実施範囲を広げていく予定である。

・総合的な探究の時間におけるプログラムの実施

高校１年生の総合的な探究の時間において，社会的課題解決に取り組んでいる企業の方の講演を聴き，さらにその現場を学ぶフィールドワークを実施し，一般企業や社会人と高等学校の連携を実現した。

今年度は，福山市に拠点を置く企業である，ホーコス株式会社（工作機械・建築設備機器・産業機械・環境改善機器製造），日東製網株式会社（漁網・漁具製造），株式会社エブリイ（スーパーマーケット），株式会社かこ川商店（廃棄物処理），せとうち母家（里山再生・古民家リノベーション）の５社の協力のもと実施した。

企業の講演では，予め課題を設定した内容を聴くのではなく，生徒がそれぞれの興味関心にしたがって企業や社会の課題を見つけ，講演を聴いただけでは分からない疑問点を整理し，それをフィールドワークで実際に確かめる形になっている。また，フィールドワーク実施後にはその成果をグループで発表する場を設けたが，その発表会に協力企業からも参加していただき，助言を得ることができた。

ここで学んだ探究の進め方を元に，その後の個人での探究活動を進めていく形を作った。

■成果の発表・普及について

・教育研究会の企画・実施

2024 年 11 月 22 日(金)に「当事者意識の涵養とともにある課題探究力Ⅱ」をテーマに教育研究会を実施した。研究会では授業を公開し，全体会は，広島市立大学国際学部教授の卜部匡司先生による

「当事者意識の涵養とともにある課題探究力の育成―生徒の課題探究を支援するためのメガネ―」の講演会を行った。

研究会の参加者は 236 名であり，大学学部生・大学院生・留学生 77 名，大学教員 18 名，高等学校教諭 81 名，中学校教諭 49 名，その他学校教諭３名，ほか教育関連企業・旧職員等８名であった。

昨年度に引き続き，WWＬ事業の発信として，昼休憩の時間に「総合的な学習の時間・総合的な探究の時間」紹介の時間を設定した。昨年度のような座談会の形は取らなかったが，広島大学附属福山中・高等学校における，個別最適な学びと協働的な学びにつながる課題探究の取り組みについて紹介した。40 名近くの参加を得ることができ，質疑応答を通して参加者の問題意識を共有することもできた。

・成果発表会の企画・実施（予定）

2025 年３月 14 日(金)にリーデンローズ（福山芸術文化ホール）にて，WWＬ成果発表会を実施した。参加者は，広島大学附属福山中・高等学校の中学生約 360 名，高校生約 400 名，被提供校生徒４名（研究発表者として）。被提供校および課題探究学習に協力いただいた企業・団体と保護者には，成果発表会の様子をオンラインでリアルタイム配信した。

成果発表会の内容は以下のとおりである。

プログラム	発表者	内容
総合的な探究の時間「探究」の発表	広島大学附属福山高等学校１年生	一般企業や社会人と高等学校との連携を実現するプログラムおよびデータサイエンス学習をふまえた研究発表
総合的な探究の時間「提言Ｉ」の発表	広島大学附属福山高等学校２年生	高等学校１年生での学びをふまえ，生徒自らが課題を設定して進めた課題探究に関する研究発表
2024 年度真庭研修レポート	2024 年度真庭研修参加者	2024 年 12 月に実施した真庭研修参加校４校による，真庭市に関するレポート動画の放映
2023 年度真庭研修研究発表	広島大学附属福山高等学校 2023 年度真庭研修参加者	2023 年 12 月，及び 2024 年 12 月に実施した真庭研修をもとに，高等学校２年生の「総合的な探究の時間」において進めた課題探究に関する研究発表
留学生とともに未来を考えるプロジェクト研究発表	留学生とともに未来を考えるプロジェクト参加者	留学生に助言をもらいながら進めてきた研究について，2024 年 12 月に実施した最終発表をさらにブラッシュアップした内容に関する英語での研究発表

会の終わりには，運営指導委員による講評を設定した。

・その他の成果の普及について

2024 年７月 29 日(月)に，広島大学附属福山高等学校教諭の下前弘司が山口県立山口高等学校徳佐分校の教職員研修会に招かれ，「全教科の教員でつくる総合的な学習の時間・総合的な探究の時間」の発表を行った。徳佐分校の教員８名，山口高等学校の副校長１名，山口県の指導主事１名が参加し，課題探究プログラムにおける問題点や方向性について，また，WWＬで取り組んでいるプロジェクトについて説明した。これは，2023 年度の広島大学附属福山中・高等学校教育研究会において「総合的な探究の時間」の紹介を行い，座談会を開いたことが発端となっている。

さらに今年度の教育研究会においても，山口県立華陵高等学校の教員２名から「総合的な探究の

時間」についての質問依頼があり，対応した。今後も教育研究会における発信の仕方を工夫していきたい。

2025 年２月 12 日(水)にオンラインで開催された，令和６年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会においても，「個別最適な学習環境の構築に向けた探究活動プログラム」と題して，ＷＷＬ事業における探究活動の具体や「総合的な探究の時間」全体の取り組みについて発表を行った。

ＷＷＬ事業に関する報告書は，規定とおりに学校 Web ページに掲載している。また，2024 年４月１日に発刊した「中等教育研究紀要 ／広島大学附属福山中・高等学校 Volume 64」に報告書を掲載するとともに，ＷＷＬ事業に関する様々な取り組みを説明している。

■高度な学びを提供するＡＰの開発

広島大学では令和元年度より試行的に高校生が高等学校在学中に大学の正規の科目を受講する仕組みを作り，広島大学の東千田キャンパスなどで実施してきた。令和２年度には大学の科目等履修生に準拠する形で，単位を修得した高校生が広島大学入学後に申請すれば正規の単位として認定される単位認定制度を設け，広島大学アドバンストプレイスメントとしての実施がはじまった。

令和６年度については，令和６年１月末から被提供校を含めて広報および受講者募集を行った。開講科目は教養教育科目として，「睡眠の科学」（２単位），「心理学概論 B」（２単位），「日本の文学（近現代）」（２単位），「生活の中の遺伝と突然変異」（２単位），「サイエンス入門」（２単位），「食文化論」（２単位），「英語によるレポート・論文の書き方」（１単位）を開講した。また，理学部の専門教育科目として，「数学の未解決問題入門」（１単位）を開講した。これら広島大学アドバンストプレイスメントの授業科目（計８科目）については，原則オンラインで開講し，履修生は，自宅等のインターネット環境を用いて，講義動画，音声資料及び視覚資料により自身の設定した時間で履修するとともに，提示された課題やレポート等に取り組んだ。

単位修得状況については，履修者 112 人（延べ人数）のうち 82 人が単位を修得した。（73%）

高等学校における単位認定については実施に向けて調整中だが，広島大学アドバンストプレイスメント細則の第 10 条（前条第１項の規定により授与した単位が，生徒の在学する高等学校等における科目の単位として認定された場合は，当該授与した単位については，広島大学通則第 31 条第１項の規定は，適用しない。）により，高等学校で単位を認定した場合は，大学での単位として認定できなくなるため，高校での単位認定を希望する生徒は今のところいない状況である。今後も，制度面での見直しなどを含めて改善を検討していく。

■運営指導委員会

2025 年 3 月 14 日(金)17:00～18:00 に実施した。

内容は，〇成果発表会の講評，〇個別最適な学びに関する指導助言，〇課題探究学習のありかたについての協議である。参加者は以下のとおりである。

〔運営指導委員〕

卜部 匡司 氏　　広島市立大学国際学部 教授

渡辺 健次 氏　　広島大学大学院人間社会科学研究科 教授

吉田 成章 氏　　広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授

ほか，提供校校長，副校長２名，研究部長，研究係，各教科代表からなる研究開発委員が出席した。
運営指導委員の先生方からは，特に生徒の探究活動について数年間の積み重ねの成果，成長を感じるということ，各プロジェクトで本物に触れることができていることが生徒の本気の探究につながっているということ等をご指摘いただき，今後も各プロジェクトを継続していくための助言をいただいた。

３．目標の進捗状況，成果，評価

広島大学附属福山中・高等学校では，個別最適な学習を，生徒が自らの関心に沿って新たな学びの機会，特に対話の機会を得ることと捉え，それにふさわしい各種プロジェクトを実施してきた。「当事者意識の涵養」を課題とし，生徒自身が様々な社会問題の当事者であるという自覚をもつことを「かかわり」（engagement），課題解決に向けて自分の意志で主体的に行動しようとすることを「はたらきかけ」（action）とするなど，「当事者意識をもって主体的に課題探究する」ことに必要な観点を整理した。「中等教育研究紀要 ／広島大学附属福山中・高等学校 Volume 63」に，「SGH５年間，WWL３年間のとりくみから見えてきた課題探究学習の２つの方向性」というまとめを掲載している。

構想計画書においては，アドバンスト・ラーニング（ＡＬ）ネットワーク構築に関する目標達成に向けた３年次のスケジュールを次のように示している。

① 生徒の主体的な課題探究を組織的に進める体制の構築
　　ＷＷＬ事業で構築した学びの場の継続，新たな高大連携の実践・検証
② 学校・地域の枠を超えた対話の場の構築
　　ＷＷＬ事業で構築した対話の場の継続，新たな異文化交流の実践・検証
③ 個別最適な学習環境の構築につながるカリキュラムの開発・実践・発信
　　汎用性の高いカリキュラム実践・検証・発信
④ 高度な内容を提供するアドバンストプレイスメント（ＡＰ）等の継続
　　広島大学ＡＰの拡充・実践・検証
⑤ ＡＬネットワーク会議の実施
　　ＡＬネットワーク会議開催，在り方の検証，ネットワークのつくりかたを発信
⑥ 成果の普及，教育研究会（中間報告会）の企画・実施
　　各種広報実践，学会等での実践報告，外部評価の収集
⑦ 運営指導委員会等による研究開発の評価と総括
　　運営指導委員会における指導助言や外部評価に基づく実践検証

これらの実績や詳細については前項で述べたとおりだが，その方法として挙げている「オンデマンド配信による学習機会の創出」，「オンライン授業による学習機会の創出」について進捗状況と成果をまとめる。

〇オンデマンド配信による学習機会の創出について

広島大学附属福山中・高等学校では，個別最適な学びに資するオンデマンドコンテンツとして，

「数学」「英語」「美術」の学習コンテンツを完成させ，Web ページに掲載したものを公開した。
　また，総合的な探究の時間における授業内容のうち，探究活動を行うにあたって必要な基礎的な内容の部分は，動画として保存し，校内の生徒がいつでも視聴可能になっている。このことによって，欠席した生徒が授業内容を確認したり，授業内容の復習をしたりすることが可能になっただけでなく，担当の教員が変わっても一定の指導を行うことが可能になった。
　また，個別最適な学びの場として各種プログラムにおいては，昨年度までのプログラム内容を編集した動画を作成し，被提供校に対して事前に内容を周知するために利用することができた。今年度もそれを参加した生徒自身が作成することで次年度へつながることを期待している。また，プログラムの事前学習のために見ておきたいコンテンツや，途中で必要な情報についても，Google Classroom や Google Meet 等を活用することで，提供校の生徒・教員と被提供校の生徒・教員の情報共有をスムーズに行うことができた。今後こういったプログラム・コンテンツを広げていく際にも利用することができると思われる。

〇オンライン授業による学習機会の創出について

　オンライン授業については，基本的に被提供校と行事予定や時程が合わず，なかなか実現が難しい中，各プログラムの中でいくつか実施することができた。前項でも述べたが，「未来の医療を創るプロジェクト１」では２校同時に医療現場の様子をオンラインで観察したり，医師の話を聞いたりした。また，「留学生とともに未来を考えるプロジェクト」においても，遠方の被提供校の生徒と一緒に留学生の研究発表を聞くだけでなく，グループでの話し合いをオンラインで行った。
　オンラインで実施する際には，参加者の顔が見えるようにすること，現地参加の参加者とオンライン参加者が単につながっているというだけでなく対話を積極的に行うことを重視して行い，それだけで完結するのではなく対面での学びの場を設定することも意識して行った。プログラムの最初には，複数校が一緒に探究活動を行うことの難しさを感想として記す生徒もいたが，単に回を進めるというだけでなく一度でも実際の場で顔を合わせる場を設けることで，参加生徒同士の関係づくりがスムーズに行われ，結果的に探究活動の内容を深めることにつながった。

〇目標に対する生徒の自己評価

　本事業は，現実を直視して解決すべき課題を見いだし，自分が社会問題の当事者であると考え，課題解決に向けて自分の意志で主体的に行動しようとする意識を涵養することを目標として実施した。総合的な探究の時間における生徒の自己評価の記述には，「世の中ですでに発見されている課題をまとめるのではなく，自分でデータをもとに課題を発見することができた。」「実際に困っている人や場面がある課題を発見することができた。」「普段からニュースを見たり本などを読んだりして社会の動きについて積極的に知ろうとすることを心がけた。また，社会問題と結びつけて私達にはなにができるか，どのような行動が必要か，など様々な視点から物事を見ることを心がけた。」「日々の些細な事柄から自分にとって興味のある事柄を見つけ，当たり前だと思われていることに対して課題を発見する能力を身につけることができた。」という内容が多く見られ，生徒が自己と社会を結びつけて考えることができた様子がうかがえる。
　また，「実地研修が一番印象的だった。実際に現地に行って情報を得ることの難しさや事前にこの

ようなことを考えておくべきだったと課題点はあったものの，その分ネット上などの資料からだけでは気づくことができないような気づきや実践的な気づきを深める貴重な機会となった。」「探究のテーマ決めの際に，企業研究のときに，実地研修に行って質問したいことを考えたように，今度は自分の中で疑問に思ったことを探し，それをもとにテーマを設定することで課題発見力が備わった。」という記述からは，実際に現場を見て学んだことが，次の探究活動に活きていることがよく分かる。他のプロジェクトにおいても，「今まで一つの問題について深く考えたことがなかったが，この活動を通して，なぜそうなったのか，解決するためには何をすればよいのか，など考えるようになった。またその問題を国内ではなく，世界とも比べて視野を広げることもできた。」「みんなが私よりも断然たくさんの視点，情報，価値観から考えていて，発表を聞いていてとても楽しかったし，今後社会に出て生きていくうえで，すごく重要な考え方について学べる良い機会になったと思う。」というまとめが見られ，生徒一人一人が当事者として社会問題を考えることや，他者との協働的な学びから多くのことを得ることができたと言える。

４．次年度以降の課題及び改善点

個別最適および協働的学びにつながる対話の場を実現するプログラムは，今後も継続していきたいと考えているところである。その際に，他校と連携を行う場合の実施の仕方やオンライン・オンデマンド配信のやり方は経験が蓄積されてきたものの，他校のニーズと合致しているのか確認することや，プログラムをよりよくしていくために他校の教員と議論を重ねることは十分にできていない。今後も提供校と被提供校，という関係にとらわれず，お互いに各学校で実施されている課外学習や校外研修といったものを拡充し，学校の枠を超えた学びの場・対話の場にすることも，個別最適な学習環境の構築につながると考える。今回の事業でできた連携の形をうまく応用し，より活用しやすい形で提案していくことが今後の課題である。

また，総合的な探究の時間の取り組みについては，教育研究会での参加者の反応を見ても，多くの学校において具体的な発信が求められていると感じる。現在行っている「当事者意識の涵養」につながる課題探究のあり方の研究を各教科の実践とも合わせて発信していきたい。

【実施機関の担当者】本件について連絡する場合がございます。

担当課・室	教育室教育部附属学校支援グループ	担当者 職・氏名	主査(財務主担当)　矢吹　晃世
電話番号 （直通）	082-424-6964	E-mail	fuzoku-zaimu@office.hiroshima-u.ac.jp